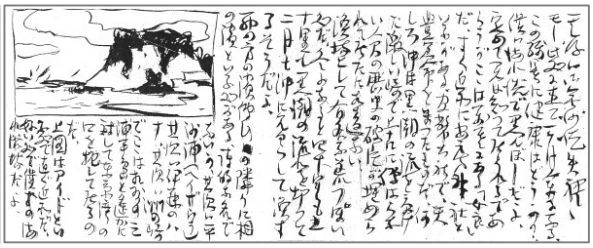
青木繁の絵手紙

東御市梅野絵画記念館蔵、『青木繁全文集 假象の創造』(中央公論美術出版刊)所収



房州富崎村字布良　小谷喜六方　青木生
福岡県八女郡三河村字緒玉　梅野満雄様

其後ハ御無沙汰失禮候
モー此處に來て一ヶ月餘になる、
この殘暑に健康はどうか？
僕は海水浴で黒んぼーだよ、
定めて君は知つて居られるであらうが
こゝは萬葉にある「女良」だ、
すく近所に安房神社といふがある、
官幣大社で、天豐美命をまつ[つ]たものだ、
何しろ沖は黒潮の流を受けた
激しい崎で上古に傳はらない
人間の歴史の破片が埋められて
居たに相違ない、
漁場として有名な荒つぽい處だ、
冬になると四十里も五十里も
黒潮の流れを切つて
二月も沖に暮らして漁するそうだよ、
西の方の浜傳ひの隣りに
相の濱といふ處がある、詩的な名でないか、
其次ハ平沙浦(ヘイザウラ)
其次ハ伊藤のハナ、其次ハ洲の崎で
こゝは相州の三浦半島と遥かに對して
東京灣の口を扼して居るのだ、
上圖はアイドといふ處で直ぐ近所だ、
好い處で僕等の海水浴場だよ、

上圖が平沙浦、先きに見ゆるのが洲の崎だ、
富士も見ゆる、雲ポツリ、
又ポツツリ、ポツツリ！　波ピッチャリ、
又ピッチャリ、ピッチャリ！
砂ヂリヂリとやけて　風ムシムシとあつく
なぎたる空！　はやりたる潮！
童謡　「ひまにゃ来て見よ、
平沙の浦わァー　西は洲の崎、
東は布良ァよ、沖を流るゝ　黒瀬川ァー
サアサ、ドンブラコッコ、スッコッコ、!!!」

これが波のどかな平沙浦だよ、
濱地には瓜、西瓜抔がよく出來るよ、
蛤も水の中から採れるよ、
晴れると大島利島シキネ島抔が列をそろえて
沖を十里にかすんで見える、
其波間を漁船が見えかくれする、面白いこと
夫れから東が根本、白濱、野島だ、
僅かに三里の間だ、野島崎には燈臺がある、
沖では　クヂラ、ヒラウヲ、
カジキ「ハイホのこと」、
マグロ、フカ、キワダ、サメ、がとれる、
皆二十貫から百貫目位のもので釣るのだ、
恐しい様な荒つぽい事だ、
灘では、トビ魚（ヤゴ）、
カツオ、タイ、アヂ、ヒラメ、サバ、抔だ、
それから岸近くでは、小アヂ、タカベ、
クロダイ、カレイ、ボラ、抔だ、
磯邊ではタコ（(大[き]いよ)、
イセエビ、メチダイ、メジナ、抔だよ、

夫れから濱磯では、モクツ、モク、アラメ、
ワカメ、ミル、トサカメ、テングサ、メリグサ、
アワビ、ハマグリ、タマガヒ、トコボシ、ウニ、
イソギンチャク、ホラノカヒ、サヽエ、アカニシ、
ツメッケイ(ツメガヒ)、抔だ、
まだまだ其外に名も知らぬものが
倍も三倍もある、また種族が同じで
殊類なものもあるのだ、
今は少々製作中だ、大きい、
モデルを澤山つかつて居る、
いづれ東京に歸へつてから
御覧に入れる迄は黙して居よう。

八月二十二日　繁

満雄兄